



千八百七十八年  
長崎港貿易報告



3428





114  
A 3142  
24/26



謹テ白ス余今辱ク客年本港ニ於ケル貿易及テ諸船ノ報告ヲ閣下ニ呈スル榮ヲ得タリ  
乃チ其報告ハ左ノ條目ヨリ組成スルモノナリ

峯源次郎 譯

大正十一年四月  
隈依壽郎寄贈

第一

外国ヨリ輸入品ノ報告

第二

外国へ輸出品ノ報告

第三

日本ニ於ケル他ノ開港ヨリ輸入ノ報告

第四

日本ニ於ケル他ノ開港へ輸出ノ報告

大正十一年



第五

輸入及輸出貨幣ノ報告

第六

收税ノ報告

第七

入港出港ノ外國船ノ報告

第八

入港及出港シタル外國形日本商船ノ報告

第九

外國居留人及商社ノ報告

貿易ノ報告ハ日本政府ノ出版シタル公報若クハ本港税関官吏ノ余ニ好意ヲ以テ送付セラルタル記録ヨリ編纂スルモノニシテ諸船及居留人ノ報告ハ當港各國ノ領事若クハ他ノ官吏ヨ

リ送ラレタル記録ニ據ルモノナリ

貿易

一千八百七十八年間本港ニ於テ外國トノ貿易取引ノ總計ハ三百八十八萬二千九百六十九「ドル」ノ巨額ニ達ス然ルニ一千八百七十七年ニ於テハ三百六十九萬六千九百七十五「ドル」ナリシヲ以テ一千八百七十四年以來未々昨年ノ如キ巨額ナルヲ觀ス

然リ而シテ輸入貿易ハ一千八百七十七年ノ輸入貿易ニ比較スレハ稍衰ヘタルヲ見ル即チ昨年ノ輸入高ハ一百四十八萬四千四百六十八「ドル」ニシテ一千八百七十七年ノ額高ハ一百五十七萬八千一百六十九「ドル」ナリ  
右ニ反シテ輸出ハ一千八百七十七年ニ比較シテ稍増加シ其増額ハ稍輸入ノ減額ニ超過セリ即チ昨年ノ輸出高ハ二百三十九



萬八千五百〇一ドルラニシテ一千八百七十七年、高ハ二百  
〇七萬八千八百〇六ドルラナリ  
外國ヨリ輸入スル物品ノ内毛布棉毛混合布及ビ東洋産ノ金屬  
并ニ雜貨ノ輸入稍衰ヘ兵器彈藥ノ條日ニ至リテハ全ク其輸入  
ヲ觀ス而シテ西洋産ノ綿布及ビ雜貨ノ輸入ハ稍増加ス  
本港輸入貿易ノ大半ハ支那商人ノ手ニ成レリ蓋シ支那商人々  
ルヤ上海ニ於テ糶賣ノ物品ヲ買ヒ本港ニ積來テ賣捌クモノナ  
リ西洋諸國ヨリ直接ニ本港ヘ輸入スル物品ノ著シキモノハ唯  
米國ヨリ來ル石腦油ノミ此品トテモ其總額ヲ尽ク本港ニ輸入  
スルニ非ラス  
又々蘇士渠ヲ航シテ日本ニ來ル蒸氣船ハ本港ニ若干ノ商品ヲ  
輸入スト雖モ其數量甚々少シ  
右ノ如キ貿易ノ狀況ナリト雖モ輸入シタル製造品ノ大半ハ英

英國産ナルヲ觀ルナリ又輸入表中ニ掲載スル石炭ハ英國軍艦  
使用ニ供センカ為メ輸入セシモノナリ  
稅関ノ報告中昨年ノ間ニ二萬〇二百五十ドルラニテ一般ノ  
蒸氣船ヲ日本人ニ賣リシコトアルヲ録スレモ同船ハ該年ノ内  
既ニ日本人ヨリ英人ノ手ニ移リ日旗ノ英旗ニ変シタルヲ觀タ  
リ  
稅関ノ報告ニ據レバ輸入品ノ内價直二萬九千二百九十四ドル  
ラレ丈ノ物品ハ再々外國ヘ輸出セラレタルヲ觀ルナリ蓋シ其  
物品ノ内殆ント三分ノ二ハ本港ヨリブラジラストツクニ積出  
シ残ル三分ノ一ハ支那諸港ヘ輸出セリ  
輸出ノ景況左ノ如シ  
米國ニ於テ物價頻リニ下落セシヨリ本港ヨリ輸出シタル茶ノ  
價直ノ額高ハ著シク一千八百七十七年ノ額高ニ下レリ而シテ



パンチヤ按スルニ所謂番茶ニシテ下等ノ品ヲ云フナラン及ビ塵茶ノ如キモ亦其量價共ニ減スルヲ觀ル茶ノ價直ノ此ノ如ク下落シタルヨリ其生産者ノ茶葉ヲ製スル往々粗糙ニ至ルノ情勢アリト云ヘリ

然リ而シテ目今輸出スル所ノ茶ハ當地方ニ産スル上等品ノミナリ蓋シ其然ル所以ノモノハ右物價ノ総下落ト低價ノ茶但シバンチヤニアラスニシテ最良ノ茶ト均シク輸出税ヲ課セラルカ故ナリ

煙草ノ輸出高ハ一千八百七十七年ノ輸出額ノ三分ノ一ニ越ヘス此減額アル所以ノモノハ即チ一千八百七十七年煙草葉ノ收入昨年ノ秋稍ク市場ニ出テタレ其量數甚ダ少クシテ其品柄モ亦宜シカラザルニ當時又英國ノ市場ニ該品ノ貿易ヲ慫慂スルノ景氣ナキニ由ルナリ

蠟ノ輸出ハ稍衰状ヲ顯セリ蓋シ英國ニ於テ該價ノ賤シキヨリ其製造ヲ減シタルモノナラシ之レニ及シテ樟腦ノ輸出ハ大ニ増加セリ該二品ハ大半支那商人ノ船積セシ所ナリシヲ知ル

石炭ノ輸出額ハ大ニ各前二年ノ輸出高ニ増加セリ而シテ輸出シタル總額二十萬〇一七トシノ内九萬七千〇九十一トシハ蒸氣船ニテ輸出シ其殘額ハ帆走船ニテ輸出セリ

米ノ輸出額ハ支那ニ需用ノ大ナリシヨリ著ク増加セリ小麥ノ如キモ支那ニ需用ノ増シタリシヨリ輸出表ニ於テ昨年大ニ増加シタルヲ見ルナリ

長崎港ト他ノ開港場トノ間ノ輸入及ヒ輸出ノ報告ニ付テハ此處ニ於テ殊ニ説明スルニ及ハス蓋シ此貿易ハ神戸ト為セシモノ最モ居多ナレバナリ

税関ノ報告ニ由レバ貨幣ノ報告ニ於ケル外國へ輸出シタル金額ノ内ニ魯國紙幣ノ金額四千四百ドルナリト云フ一個ノ



條目アリテ含有セルヲ視ルナリ

船積及テ航海

本港外國船ノ艘數合計(但シ英國船ヲ含ム)ハ大ニ一千八百七十  
七年ノ合計ニ超過セリ而シテ其噸數ハ少シク一千八百七十六  
年ノ噸數ニ減差ス昨年入港セシ外國船ノ艘數ハ二百七十四艘  
ニシテ其噸數ノ合計ハ十八万二千四百七十七噸ナリ然ルニ一  
千八百七十七年ニ於テハ二百四十一艘ニシテ其噸數十四萬四  
千〇七十三噸ナリ而シテ一千八百七十六年ニ於テハ二百七十  
七艘ニシテ其噸數十八萬〇二百四十三ナリ  
抑モ一千八百七十七年間本港貿易ノ報告ニ於テ余既ニ同年間  
外國船噸數合計ヲ一千八百七十六年噸數合計ニ比較シテ著シ  
ク減少ヲ顯シタルモノハ蓋シ米國ノ旗ヲ掲クル外國郵船ノ航  
海全ク廢絶シ今己ニ日本ノ旗ヲ掲グル郵船ヲ以テ其航海ノ用

ヲ便スルニ因由ヤシコトヲ開陳セリ

是故ニ假リニ令一船外國ノ統計ニ加フルニ昔日米國ノ旗ヲ掲  
ケシモ今日ハ日本ノ旗ヲ掲ケテ當港ニ出入スル蒸氣船ノ艘數  
ヲ以テスルトキハ則チ本港ニ於ケル右噸數ノ合計ハ近年少シ  
ク減少セザルノミナラス年々大ニ増加シタルヲ見ルベシ是レ  
余ノ此処ニ開示スルヲ要用ナリト信スル所ナリ  
特ニ英國船ノミニ付テ計算スルトキハ年々陸續増加シタリシ  
ヲ知ル即チ左ノ表ニ據テ前四箇年間ニ入港シタル英國船ノ増  
進ヲ觀ルベキナリ

年	入港シタル英國船數	全ク噸數
一千八百七十五年	一二〇	六七、七九一
一千八百七十六年	一三二	八〇、二四三
一千八百七十七年	一五五	九二、二一七



昨年ノ間ニ合シテ二千五百十四トシノ船三艘大英國ヨリ直ニ本港ニ到着シ而シテ四百三十一噸ノ船一艘同國ニ向テ出港ヤリ又合ヤテ二萬〇四百六十一トシノ船二十五艘英殖民地殊ニ香港ヨリ直ニ入港シ而シテ合ヤテ一萬八千九百三十四トシノ船二十一艘又同地ニ向テ解纜セリ

三菱汽船會社ノ郵船一方ニ於テハ常ニ本港ト上海トノ間ニ他ノ方ニ於テハ神戸ト横濱トノ間ニ毎週郵便傳達ノ船海ヲ保テリ然リ而シテ該郵船及ヒ其他外國形日本船ノ委細ハ報告ノ第八條目ニ登錄スベシ

乾造船所ノ情况ハ左ノ如シ

該處ノ築造タルヤ昨年中ニハ落成スルナルベシト豫定シタリシニ不幸ニシテ昨年六月三十日ニ於テ一災害ノ生スルアツテ

大ニ其工作ノ成就ヲ妨ケタリ即チ同日該造船所ノ入口ヲ堰止メタル障水堤壞崩シ從テ海水造船所中ニ流入シ水門機ニ激衝シ大ニ之レヲ破損セリ蓋シ水門機タルヤ其時工事既ニ成テ不日之レヲ入口ニ設置セント準備セシ所ナリ

右ノ如キ不幸ニ遭遇シタリト雖モ水門機修繕設置ノ工作今殆ント完全ヤリ而シテ造船所本部ノ石工ノ如キハ右障水堤壞崩ノ前既ニ落成シ造船所内凹凸アルノ處ヲ平坦ニスル工作モ既ニ成レリ而シテ唧筒機械ノ設置殆ント皆整頓シ水門近傍ノ海底ヲ掘深ムル業モ大ニ進捗セリ故ニ久シカラス残工全ク落成スベシ然ラハ則チ當造船所ノ開業ハ必ラス數月ノ内ニアルベシト先言スルモ敢テ溢言ニアラザルベシト信スルナリ

當地方ノ產物及ヒ工業

長崎港ヲ以テ開港場トナス當地方ノ農業產物中最重ナルモノ



ハ則チ米、大麥、小麥、豆類及ヒ其他ノ收穫物ナリ又茶、煙草、木蠟、菌類人參及ヒ樟腦等ノ産物アリ然レモ人參ノ如キハ其産額甚々少ナシ此外又若干ノ材木ヲ産セリ

當地方鑛産物ノ内ニテハ石炭ヲ以テ最重ノ産物トス而シテ現今採掘スル石炭鑛ノ内ニ付テ最モ盛大ナルモノハ即チ高嶋ニシテ一千八百七十八年間該鑛ノ純産額ハ十四萬一千七百七十二トシナリ長崎ノ價直ニ由テ一トシニ付キ四ドルラレ四十九セシトスルトキハ則チ合計六十七萬九千八百八十ドルラレナリ

右石炭鑛ニ産スル石炭ハ盡ク日本形ノ大船若クハ端船ニ積入レ蒸氣挽船ニテ之ヲ挽キ長崎港ニ入津シ本港ヨリ日本ノ他ノ開港場或ハ上海及ヒ其他ノ積出セリ左ノ計算書載ハ即チ昨年ノ間ニ石産額ヲ賣捌キシ計算ヲ示スモノナリ

長崎港及ヒ其他ノ日本港ニ於ケル賣高 六三、三一四トシ

外國ニ於ケル賣高(但シ上海等) 五七、四〇一トシ

賣残り貯蔵高 二一、〇五七トシ

合計 一四一、七七二トシ

右高島石炭ノ外長崎港ニ於テ賣捌クベキ石炭其金高ノ順ニ由レバ唐津多久三池今福等ノ石炭ナリ余今右石炭ヲ産タリシ

鑛山ニ付テ尽ク其産額ノ報告ヲ與フルニ由ナシト雖モ特リ彼島原灣ノ上ニ於ル三池鑛ニ付テハ余其開ク所ヲ報道スベシ抑

モ一千八百七十八年三池鑛石炭産出ノ合計ハ八萬一千〇三十五トシナリ而シテ其額高ヲ諸港ニ積出セシコト左ノ如シ

該鑛山ヨリ長崎ニ運輸セシ高 五、〇八六トシ

上海ニ輸出スルカ若クハクナノツニ於テ 七、九三五トシ

賣捌カンカ為メクナノツ港ニ運輸セシ高



長崎港ノ外ニ日本ノ他港ニ運輸セシ高  
三池ニ於テ賣捌キシ高

一一、五一三トシ

合計

五六、五〇一トシ

此計算ニ由テ觀ルトキハ積出ノ為メ長崎ニ運輸セシ石炭ハ総

産額ノ唯一小部分ニ過キサルヲ知ルベシ左ノ書載ハ昨年ノ間

ニ石三池石炭鑛産額ノ賣捌キ計算ヲ示スモノナリ

日本ニ於テノ賣高(但シ長崎ヲ含ム) 六四、七六一噸

上海ニ於テノ賣高 八一、一七噸

各所ニ於ル賣残り高 八一、〇三五噸

合計

八一、〇三五噸

長崎港將來貿易ノ盛衰ハ何レノ點ヨリ觀察スルモ該地方石炭  
鑛開進ノ如何ニ因由スルヤ明カナリ而シテ目今採鑛事業一層  
擴充セント欲スルモ能ハサル所以ノ困難ハ則チ他ナシ鑛山所

有者其事業ヲ盛大ニスベキ財本ニ乏シキト此事業ニ外國ノ財

本ヲ卸サシムルニ欠クベカラザル抵当ナキニ由ルナリ

石炭ノ外該地方鑛産ノ内殊ニ記載スルニ足ルモノハ唯硫黄ノ

一品ノミ其外銅鉄「アンチモニー」及ヒ其他ノ鑛産アリト云ル其

産額甚ダ少ナシ而シテ石灰ノ如キモ亦稍産出ス

當海濱及ヒ五島等ニ於テハ住民多ク漁業ヲ營ナシ而シテ其漁

業ノ産物ハ國內人民食物ノ一主産品トナルノミナラス屢支那

ニ輸出ス其輸出額一年三十萬ドルヲ多キニ至ルナリ

内國産物質ノ製造品ノ内ニ付テハ磁器陶器ヲ以テ最上トス就

中有田伊万里ノ陶器製造所及ヒ薩摩ノ製造所ニ於テ該製造品

ノ如キハ遠ク海外ニ知ラレ其好愛スル所トナレリ然ルニ近來

舊製法ヲ廢シ西洋ニ摹倣セント試ミ或ハ其摹倣ヲ成功スルコ

トアルモ多クハ皆失敗セリ蓋シ此等失敗ノ例ハ凡百ノ事業ニ



付テ之レアルヲ視ル豈獨リ陶事ノミニ限ラシヤ而シテ今日ノ  
通惠ナリ  
漆器ハ該地方ニ於テ製造スト其量極メテ少ナシ經常日本  
紙ヲ製スルコト甚タ大ニシテ一種ノ輸出品トナレリ又長崎ニ  
於テ輸入蠶甲ニテ蠶甲細工ヲ為セリ然リ而シテ内國ノ使用ニ  
供ヤシカ為メニ製造スル針釘及ヒ各種織物製造ノ如キハ今此  
處ニ記載スルヲ要セザルナリ

### 朝鮮國トノ貿易

本港ト朝鮮釜山トノ間ニハ一小蒸氣船(即チ日本船報告中ニ記  
スル長崎ヨリ五島及ヒ對馬ヲ歷テ釜山ニ於ケル日本殖民地ニ  
至ル間ニ毎月一次航海スル日本蒸氣船ヲ云)ノ航海スルアルノ  
外又小形ノ日本船多ク此間ニ往來シテ以テ其貿易ヲ為セリ  
一千八百七十八年ニ於テ日本帆船十四艘釜山ヨリ長崎ニ入

港シ而シテ二十艘釜山ニ向テ出港セリ釜山ヨリ長崎ニ輸入シ  
タル物品價直ノ合計ハ四萬四千三百四十二ドルニシテ其  
物品ハ米蚕豆乾魚骨類金粉銀及ヒ青銅等ナリ長崎ヨリ釜山ニ  
輸出シタル物品價直ノ合計ハ十八萬五千六百八十二ドルニ  
シテ其物品ハ襪衣布細布生棉花綿線日本絹織物染料銅錫及  
ヒ「マツ」チ等ナリ然リ而シテ右輸出品價直金額ノ内ニ銅貨二千  
五百ドルラレ小銀貨三千ドルラレヲ含有セリ  
右ニ陳述ス所ノ本港ト朝鮮トノ貿易ハ昨年ノ間外國ト長崎港  
トノ一般貿易ノ報告中ニハ之レヲ記載ヤス

### 税関ノ景况

本港税関官吏殊ニ些細ノ事ニ付キ往々專斷ヲ行ヒ無益ノ世話  
ニ過ルヨリ不便少ナカラサルヲ此處ニ記スルモ敢テ其正鵠ヲ  
失スルモノニアラザルベシト信ス抑モ貿易品ノ税関ノ手数ヲ



經ルニ於テハ格別非難スベキモノナシト雖此港ト日本ノ他  
ノ開港場トノ間ニ運輸スル小包(例ハ物品ノ見本ノ如キ物)  
検査及ヒ船中食用品等ノ積込修繕ヲ為スベキ船ノ附屬品ノ陸  
揚積込及ヒ其他ノ検査ノ如キ細末ノ事ニ付商人船長及ヒ其他  
ノ者皆税関官吏ノ之レヲ抑留センコトヲ顧慮スルヨリ其不便  
實ニ僅小ナラザルナリ拜具

長崎領事館ニ於テ

一千八百七十九年三月二十九日

ゼームス、トロップ

サー、ハリリー、エス、パークス閣下



